

ANNUAL REPORT

2023
2024



かものはし
プロジェクト

#こども #尊厳 #市民の力
#Children #Dignity #The Power of Citizens



こどもの虐待や貧困 「なんとかしたい」を 大きな力に変えていく

こどもへの暴力や、こどもの貧困。
現状を変えられず、孤独の中にいる親たち。
私たちは、事件がニュースになるたび、
どうにかしたいと強く思う。
けれど、どうアクションしていいかわからない。
一方では、虐待などの社会問題に立ち向かっているけれど、
リソースも足りず、社会からの心ない批判を浴びて、
疲弊している現場の方々もいます。
まだまだ、今は、思いが「点」として存在していて、
問題解決や癒しのための
「大きな力」になりえていないのかもしれない。
人にいちばん近いところで、自分たち自身のこととして、
ちょっとずつ力を出し合い、寄り添い、希望をつなぐ。
それは、政治や、企業の経済活動だけではカバーできない、
「市民一人ひとり」から生まれる、大いなる力です。
この、一人ひとりの思いを束ねて生まれた大きな力を、
必要とする場所へと届けつづけることで、社会は必ず変わります。
こどもも、大人も、生まれながらに持つ「尊厳」を大切に、
大切にされている社会をかなえられるはずです。
そのために、かものはしプロジェクトのこれからがあります。
一緒に、大きな力になってください。

#こども #尊厳 #市民の力

かものはし プロジェクト

Cover illustration



かものはしに関わっているサバイバー、こども、若者、妊産婦が集まり、お互いを尊重し、対話している世界をイラストレーターの名渡山さんに表現していただきました。

Illustration by Ayako Natoyama

かものはしの活動

in INDIA
インド事業

人身売買の被害にあった人たちが 声をあげシステムを改善する

2012年から「商業的性的搾取及び労働搾取を目的とした人身売買」を解決するために、インドで活動を続けています。サバイバー（人身売買の被害を生き抜いた人）が自分の人生を取り戻し、社会を変えるリーダーへと成長することに寄り添う「リーダーシップネクスト事業」と人身売買ビジネスが成り立たないように、社会の仕組みを変える「タフティッシュ事業」を柱として、現地パートナー団体を通じて支援しています。



リーダーシップネクスト事業に取り組むNGOパートナー、BUPのファシリテーターたちと

P.18~

in JAPAN
日本事業

誰もが生まれてきてよかったと 思える社会をともにつくる

日本でも「こどもの尊厳が踏みにじられている現状を変えたい」という思いで、かものはしは、2019年から日本国内での活動をスタートしました。こどもが虐待されない、そして虐待された人が回復できる社会をつくるために、「孤立しがちな妊産婦の支援事業」、「児童養護施設などを退所した若者の巣立ち（自立）の応援事業」、「地域の創発・協働事業」に取り組んでいます。活動を通して、社会のなかに豊かなつながりを育てていきます。



こどもも大人も、一人一人が対等で、尊厳のある存在として尊重される社会をつくりたい

P.06~

in SOCIAL
ソーシャルコミュニケーション事業

「あなた」に伝えて 「わたし」を増やす

「なんとかしたい」という思いを社会を変える大きな力に変えるために、人身売買や児童虐待問題を多くの人に伝え、行動を促す活動を行っています。WEBやSNS、年次報告書での発信やイベント、ボランティアの場作りを通じて、多くの人に社会問題を伝え、アクションする人の輪を広げています。2023年からは対面イベントを再開し、講演会やサポーター会員向け「全国活動報告ツアー」も実施しています。



「なんとかしたい」は世界共通。東京マラソン2024では多くの支援者が集結しました！（かものはしプロジェクトは、東京マラソン財団チャリティの寄付先団体です）

P.28~

インド事業

124人が被害者補償の申請
認められた補償金額は8万～80万ルピー※

2023年度、124人のサバイバーが被害者補償申請を行いました。そのうち55人に被害者補償が認められ、69人は保留中です。31人は控訴せず、24人は補償内容に不服として控訴しました。11人は銀行口座に補償金を受け取り、20人は着金を待っています。被害者補償は、サバイバーの世帯貧困状況の大幅な改善や人身売買の再被害リスクの低減、家庭内の地位向上、子どもたちの教育資金の確保などを通じて、将来の世代にわたって脆弱性のサイクルから脱することを可能にしています。

※日本円で15万円～150万円

P.24～

55人に補償が認められました



©Siddhartha Hajra

TOPICS IN 2023

2023年度活動成果

インド事業

1,091人のサバイバーが活動

サバイバーリーダーシッププログラムを始めた時点(2018年)では、3つしかサバイバーグループが存在していませんでしたが、現在では15グループに増加し、活動するサバイバーリーダーの数も当初の57人から486人へと増え、総勢1,091人のサバイバーたちが活動しています。2023年度からはビハール州、ラジャスタン州、ジャールカンド州の3州に事業対象地を拡大し、パートナーNGOも3つ増えました。西ベンガル州、アンドラプラデシュ州、チャッティスガル州とあわせて合計6つの州で、それぞれのグループで決めたリーダーシップ活動を実施しています。

サバイバーリーダーが8倍の人数に

P.26～



©Shirsendu Roy

日本事業

自立支援と退所後ケアに関する
研修会を合同で開催

千葉・東京・神奈川合同で、施設などからの自立支援と退所後ケアに関する研修会の開催・運営をサポートし、延べ170人以上の施設や行政、アフターケア事業所の職員などに参加していただきました。さらに多くの若者に支援が届く取り組みを検討するため、全国にあるアフターケア事業所のうち、まずは9団体の訪問やヒアリングを実施して社会的養護経験者等への支援の状況を調査しました。

延べ170人以上が研修会に参加

P.16～



日本事業

妊産婦のための居場所
「ふたやすみ」の立ち上げ



ふたやすみのWEBサイト

P.14～

孤立しがちな妊産婦を支援する事業「ふたやすみ」をスタート。千葉県松戸市のNPO法人さんまとともに、サポートを必要としている妊産婦の方に宿泊・居場所・訪問の3つを通して関わります。2024年2月から訪問活動をスタート、4月1日に宿泊・居場所もオープンしました。4月末現在、3人の妊産婦さんとそのご家庭をサポートしています。ご本人や関係機関から寄せられた問い合わせ・相談件数は6件。一人一人の大切な人生に寄り添っていきます。

3人の妊産婦さんご家庭をサポート

ソーシャルコミュニケーション事業

イベント21回開催、対面イベントも再開

2023年度も多くのサポーター会員の方に活動を応援していただきました。対面でのイベントも再開し、直接お会いして活動報告や意見交換ができたことは、私たちにとって非常に大きな喜びでした。「かものはしの活動を周りに伝えているよ」「社会に対する物の見方が変わりました」という感想など、皆さまからいただいたお声に励まされ、より一層活動を前に進めていこうと勇気づけられました。

P.28～

サポーター会員数17,498人に



REPORT FROM
JAPAN

日本事業報告

日本の児童虐待を中心とした「こどもを取り巻く不条理」をなくすための活動が6年目を迎えます。試行錯誤を経て、大きく前に進もうとしている日本事業。担当のスタッフ3名がこれまでの振り返り、ありのままを語りました。聞き手は元インターンの長島です。

「皆さんの魂、
すごく燃えていますね」

長島 遼大

RYOTA NAGASHIMA

1995年生まれ。NPOで働く人に関心を持ち、在学中にかものはしプロジェクトでインターンを経験。現在は、いろんな生き方や働き方を紹介する「日本仕事百貨」で働く。求人窓口やチームづくりの伴走支援を担当。

田口 陽子

YOKO TAGUCHI

日本事業部マネジャー。妊産婦支援担当。夏・海・のんびりすることが好き。趣味は家族でのキャンプ。

村田 早耶香

SAYAKA MURATA

共同創業者。アフターケア担当。綺麗な海が好き。最近はこどもと水族館で動物と触れ合うことにはまり中。

五井 利明

TOSHIAKI GOIBUCHI

日本事業部マネジャー。アフターケア担当。よく喋る&活発に見えるひとり遊びが好き。読書、ラジオ、ランニング、筋トレが趣味。

インタビューは2024年4月10日に行われました。

長島:村田さん、お久しぶりです！田口さんと五井渕さんは初めましてですね。

村田:ほんとに久しぶり！長島くんがインターンをしていた時期に私は育休を取っていたから、当時はそこまで一緒に仕事はできなかったんだよね。

長島:当時は残念でしたが、ようやくじっくりとお話を聞ける良い機会をいただきました。

田口:早速ですが、緊張しています…(笑)

長島:大丈夫です！(笑)今日は思ったことや感じたことを、なるべくそのまま話してもらえると嬉しいです。かものはしが日本で取り組むことへの納得感を持ちたいですし、これまでの葛藤や今後の取り組みへの思いを聞いてみたいです。



「自分の子どもが 生きていく社会が、 より良くなってほしい」

五井渕:楽しみにしていました！よろしくをお願いします。

日本での事業が 立ち上がるまで

長島:まずは日本事業の立ち上げについて教えてください。これまでは海外での事業が中心でしたが、どうして日本に目を向けたのでしょうか。

村田:かものはしの取り組みを伝える中で、虐待や搾取を受けている日本の若者や子どもからも連絡をもらうことができました。自分たちも辛い経験をしているのに「もっと大変な状況に置かれているインドの子どもたちを助けてほしい」という声を聞かせてくれたり。子どもが売られない世界をつ

くるため、被害の多い国で取り組んできた一方で、日本の課題に対して何もできないことに矛盾を感じるようになりました。

あとは、2016年に子どもが産まれたことも大きかったです。自分の子どもが生きていく社会が、より良くなってほしいという気持ちが一層高まりました。

田口:私は正直、初めは日本に目を向けていませんでした。入社後に所属していたのはインド事業部だったからです。でも、かものはしで活動していくなかで、人身売買が発生する根底には、人がないがしろにされている状態があるのではないかと考えるようになりました。そして、それはインドだけの限られた問題ではないとわかったからこそ、日本事業の話が出た時に関わりたいなって思えたんです。

長島:以前から日本での取り組みを考えられていましたが、実際に事業が始まったのは2019年でした。少し時間がかかったように思えます。

村田:当時のミッションとは整合



性が取れておらず、なぜ国際協力NGOが国内支援を始めるのかという声もあったので、時間がかかるのは当然でした。でも、私はどうしても取り組みたかったんです。日本の団体だから日本の課題に取り組むという理由では、かものはしが取り組む理由にはなりません。現場で当事者と関わりながら調査を進めて、理事会でも3年ほど話し合いを重ねました。

時間はかかったけれど、たくさんの方が関わったことで日本での取り組みを始めることができましたね。

苦しんだ先に生まれた 事業の種火

長島:立ち上げ当初の様子はどうでしたか。

五井渕:最初の頃は本当に苦しかったなあ。目指すところは一緒なのに、お互いのことを理解し合えなくて。当時は、僕と村田さんはそれぞれ異なるアプローチで取り組んでいました。

村田:そうだったよね。かものはしでは、カンボジア・インドの活動から、当事者の声を真ん中に置くことと、社会システムの変化のどちらも大切だと考えていたので、日本でもそこから始めました。

私は、一時保護所で子どもの声を聞く活動^(※1)をしていたのですが、取り組めば取り組むほどに、子どもの声を聞くサポートと同じくらい、子どもたちが選べる選択肢を増やすことが重要だと考えるようになって。迷いながら取り組んでいましたね。

五井渕:一方で、僕はいろんなデータを見ながら社会構造の理解を深めていき、地域単位で官民の支援者の連携やつながりをつくることで虐待を予防する事業^(※2)を進めていました。現場で当事者と接している村田さんとは見ている世界観が違いました。

田口:最初の3年間^(※3)は試行期間だったこともあり、事業の軸が決まっていなかったから、全員でミーティングしても話が合わなかったよね。結果を出せないことに焦りを感じて、内部で何度も揉めていました。

五井渕:そうだったよね…。一人一人の思いに目を向けて、お互いを大切に合えるチームにはなっていなかったんです。マネジャーの役割を担っていた僕にとって、

(※1)P11・年表「VOICE事業」を参照 (※2)P11・年表「コレクティブ・インパクト事業」を参照 (※3)P11・年表「日本事業開始」を参照



これまでのチーム体験で最大の失敗であり挫折でした。

長島:なんと…そんなことがあったとは。僕からはさまざまな取り組みが進んでいるように見えていましたが、内部では葛藤や衝突も多かったんですね。転機はいつだったのでしょうか。

田口: 試行期間が終わる半年前から戦略を考える期間を設けたのですが、次第に私たちは何がしたいのかを話すようになりました。手を挙げて「私はこれが大事だと思う。これをやりたい」ということを、全員が発言したんです。本当にやりたいことを伝え合ったことで、一人一人がオーナーシップを持って進めていきたいと思える事業の種火が生まれたことが大きかったと思います。

五井 潤: そうそう、この時期から僕と田口さん2人でマネジメントする体制になったんだよね。「生まれた種火を絶対に消さないように選択と集中を繰り返そう」と話し合ったことを覚えています。種火を持ったメンバーは諦めなかったし、チームによるサポート体制も徐々にできていきました。出合いや機会にも恵まれた結果、妊産婦支援^{*4}とアフターケア^{*5}という2つの柱ができました。

進み出した妊産婦支援とアフターケア事業

長島: 妊産婦支援とアフターケアが事業の柱になった背景をもう少し詳しく聞きたいです。

田口: 児童虐待の問題には、負のサイクルが続いていくという不条

理さがあります。例えば、育児放棄をしてしまった事例を詳しく見ていくと、こども時代に何らかの逆境体験がある人もいます。私は、この負のサイクルを何とかしたいと気づきました。

日本には妊産婦支援の団体がとても少ないんです。だからこそ、妊産婦の居場所を1つでも増やし、将来的には誰もが当たり前に支援を受けられるよう、面的な広がりをつくることに大きな意味があると思っています。

村田: うんうん、ほんとにそうだよ。アフターケア事業の立ち上げ当初を振り返って思うのは、本当に魂を燃やしていないと事業は立ち上がらないということです。

責任感で取り組んでも、チームは動かないし事業は進まなかった。私の魂が燃えていたのは、虐待を受けたとしても、その人が自分の人生を自分の意思で選び取れるように、社会がその人に提示できる選択肢を増やすことでした。

だから、児童養護施設などを退所した若者に支援を届け、本人が望むつながりや選択肢を提供するアフターケアに取り組もうと決めました。

長島: 当初は各々が実現したい未来に向かって取り組んでいたけれど、今は妊産婦支援とアフターケアという異なるアプローチであっても同じ未来を目指して取り組まれているように感じました。

五井 潤: そうですね、異なる場所から井戸を掘っているけれど、掘っていった先にたどり着く水脈は繋がっていると思っています。それぞれの事業をリスペクトしながら、僕はここで頑張るからそっちは任せるねという気持ちで取り組んでいますね。

迷ってるとか、揺れ動いているとか、ちゃんと言葉にしたい

長島: 立ち上げから5年が経ち、一人一人が迷いなく取り組んでいるように見えます。

村田: アフターケア事業の大きな転換点は、「えんじゅ^{*6}」から一緒に活動してほしいと相談をもらったことでした。一緒に活動できれば、全国のアフターケア事業所^{*7}を支援することができるし、現場の声を国や自治体にまとめて届けることで制度に反映させることもできます。そして何よりも施設などを退所した若者への支援

(※4) 年表「孤立しがちな妊産婦の支援事業」を参照
(※5) 年表「児童養護施設などを退所した若者の巣立ちの応援事業」を参照

日本事業の5年間の年表

- 2019年度
 - **日本事業開始**
かものほし職員に加え、こどもの問題に関心や専門性がある外部メンバーとともに、児童虐待やその他のこどもを取り巻く社会課題について、学ぶことからスタート。民間団体や行政機関、専門家や当事者の方々へのヒアリング、現場活動の見学、書籍からの学習などを通じて、児童虐待の問題やその背景にある社会構造を理解することに注力しながら、事業案を構想していた。
- 2020年 4月
 - **コレクティブ・インパクト事業**(~2023年3月)
こどもや家族を地域で支える「地域エコシステム(生態系)」を育むことを目指し、地域の連携・協働を促進するコーディネーター役を担う6団体に対して、休眠預金などを活用した資金支援や研修、コンサルティングなどの伴走支援を行った。
 - **VOICE事業**(~2021年9月)
施設などの社会的養護の経験のある若者の声を反映させることで現場の支援や制度をより良いものにするための取り組み。一時保護所への訪問や当事者が中心となった政策提言のサポートを行った。
- 2021年 1月
 - **若者緊急基金プロジェクト**(~2021年5月)
コロナによる2回目の緊急事態宣言を受けて経済的な困窮など生活が厳しくなった若者たちに対して、アフターケア事業所と共同で、クラウドファンディングも活用しながら現金給付や食料サポートを行った。
- 2021年 10月
 - **コロナ禍における支援プロジェクト**(~2022年9月)
コロナ禍で経済的な困窮など厳しい生活を余儀なくされているこども・若者やその家族に対して、生活に必要な食料などを渡せるようにアフターケア事業所など2団体に対して資金提供を行った。
- 2022年 4月
 - **孤立しがちな妊産婦の支援事業【妊産婦支援】**(~現在)
妊産婦と妊娠期からつながり、産前産後を安心して過ごすための居場所「ふたやすみ」を運営している。宿泊・日中の居場所・自宅訪問を通じて、妊産婦やその家族をサポートしている。
 - **児童養護施設などを退所した若者の巣立ちの応援事業【アフターケア】**(~現在)
虐待などを理由に親を頼ることができない若者が安心して生活できるようにつながりや選択肢の保障の実現を目指している。児童養護施設の退所者への支援に携わる職員へのサポートなどを行ってきた。
- 2024年 3月
 - **地域の創発・協働事業**(~現在)
休眠預金等を活用した3年間のコレクティブ・インパクト事業を引き継ぎ、千葉県松戸市で地域の支援者の連携・協働を深めることで、虐待や孤立の予防・早期発見に取り組んでいる。

「これまでのチーム体験で最大の失敗であり、挫折でした」

サポーターさんに 「失敗していいのよ」と 言ってもらえて。

の底支えができる。取り組んできた活動の点が線になった瞬間でした。

五井 潤: えんじゅ代表・高橋亜美さんは、若者に対して「まずはどんな状態でも来てくれればいい、ここなら大丈夫という安心を一緒に育みたい。そして、ここじゃなくてもあなたは社会で生きていけるよって見送り、見守りたい」と言っていて、その言葉に深く共感しました。

当事者や現場に近いところで、傷つきながらもやってきた手触り感のある繊細な感覚と、社会システム全体の中で何が必要かを考える力の両方を持っているかものはだからこそ、役に立てると思えたんです。これまでの苦しい時間も意味があったんだなって。

田口: 私自身の変化は直近の1年

でした。それまでは、大きな成果や早く課題を解決することを期待されていて、失敗はできないと考えていました。でも、去年の総会でサポーターさんに「失敗していいのよ」と言ってもらえて。勝手に自分を縛っていたことに気づいたんです。それから私自身の納得感を大切にできるようになりました。また、頭の中で事業の必要性を理解した後に、妊産婦支援を通じて、当事者の方と直接関わるようになったことで事業のリアリティが増しました。取り組みに体重が乗って、思いも強くなっています。

長島: これからの日本事業はグッと前に進んでいきそうですね！そろそろ終わりの時間ですが最後に伝えたいことはありますか？

五井 潤: じゃあ僕から話しますね。当事者がかわいそうだから助

けたいとか、力なき存在だから救いの手が必要という姿勢ではなく、社会構造や状況上、今は不条理で大変な状態だけれど、本来は一人一人に力があって、対等で、尊厳のある存在です。そして、その人の人権を尊重していくサポートが僕たちの役割です。また、人と向き合うには、自分自身の体験や葛藤にも向き合えないと対等になれないとも考えています。でも常に向き合えているかという、そんなことはないんですよ。

田口: うんうん。完璧にはできないからこそ、今まさに迷っているとか、揺れ動いているということとか、ちゃんと言葉にしたいと思っています。これが私たちの考える誠実さであり、これからもそういう姿勢で取り組んでいきたいです。

村田: 長島くんがインタビューして



くれて、自分たちを振り返るとても良い時間になりました。走り続けることも大事だけど、立ち止まらないと大切なことって見えなくなってしまうので、今日は本当にありがとうございました。年一回くらい、長島くんを呼びたいです。(笑)

五井 潤: 同感です！今日は大切なことをたくさん振り返ることができました。日本事業の立ち上げ期に、物事がうまく進まなかったからこそ、妊産婦支援とアフターケア事業が生まれたんだよね。


田口: そうだね、もし立ち上がりがうまく行ったら、「わたしたちできるじゃん」って傲慢になってたと思う。長島くん、今日はインタビュー

してくれて本当にありがとう！

長島: そんなふうに言ってくれて、嬉しいです。ぜひ、また呼んでくださいね！今日はありがとうございました！

一人の「こどもが売られない世界をつくる」という思いが、多くの人を巻き込み、社会を変えていったことを、かものはしに関わる僕たちは知っています。そして、未来は自分たちの手で変えていけると知っている人が、たくさんいることに希望を感じます。

次にかものはしが目指すのは「だけれども、尊厳を大切に、大切にされている世界を育む」こと。日本事業を担当するスタッフの思い

や人柄を知れたことで、彼らが目指す未来を見てみたいという気持ちが、より一層強くなりました。(長島) 



(※6) えんじゅ: 社会的養護のアフターケアに取り組む団体で構成する全国ネットワーク。全国各地で活動するアフターケア事業所がつながり、学び、支え合うことを通じて、社会的養護経験者等の権利が保障され、幸福を追求することのできる社会をつくるために活動している。
(※7) アフターケア事業所: 施設などを退所した若者が交流する場をつくったり、生活や仕事に関する相談支援などを行っている事業所。

あなたと一緒に考えたい

#こども

Let's think together what "Children" means



かものはしでは、当事者の声を聴くことやこどもの権利を尊重することを大事にしています。国が掲げる「こどもまんなか社会」を実現するためにはこのような取り組みが必要だと考えています。ご自身の生活で「こどもまんなか」を意識することはありますか？こどもがまんなかになるためにできることを一緒に考えてみませんか？

妊産婦さんがゆっくり休み、 力を取り戻す居場所「ふたやすみ」の始動

孤立しがちな妊産婦の支援事業



居場所の運営や相談への対応について協議するスタッフ

困難の連鎖を希望の連鎖に

児童虐待は、親の心身の不調や社会経済的状態、孤立などのさまざまな要因が複合的かつ重層的に絡み合って発生します。また、これらの要因は突然現れるのではなく、親のこども時代の経験や環境にさかのぼることが多く、世代を超えた困難の連鎖が存在していることがわかります。そして、この連鎖は個人や各家庭が作り出したものではなく、私たち一人一人が作り上げてきた社会構造や文化的規範の中で生み出されたものです。

その困難の連鎖を断ち切り、児童虐待を防ぐことができないだろうか。心身にも生活にも大きな変化

があり誰かに頼らざるを得ない「妊娠期」こそ、困難を抱えた女性たちに出会いやすい時期ではないか。そして、命を宿したタイミングだからこそ、その人やそのこどもたちの人生を、困難の連鎖ではなく、未来への希望の連鎖と一緒に変えていくことができるのではないか。妊産婦支援事業はそんな思いから始まりました。

2022年度に、当事者や妊産婦支援を行っている各地の団体、行政機関などへのインタビューや調査を行った結果、困難を抱えた妊産婦ほどつながりが少なく孤立しがちであること、児童虐待予防の観点から妊娠期からの切れ目のない支援に向けた国の制度も充実しつつある一方で、実際にはさまざまな理

由で制度を利用できない妊産婦が多くいることなどがわかりました。この結果を踏まえ、私たちは妊産婦のための居場所を運営し、中長期的には、そのような居場所が全国各地で当たり前のよう存在するよう（さらにはそのような居場所さえ不要な社会になるよう）取り組むことを方針としました。

約1年かけて生まれた 「ふたやすみ」

2023年度は、居場所の立ち上げに注力し、2024年1月に千葉県松戸市で、困りごとを抱える妊産婦の居場所「ふたやすみ」の運営を開始しました。この名前には、「ひとやすみ」よりも、もっとゆっくり心と体を休め、その人自身が持つ本来の力を取り戻し、地域内外のつながりのなかで、その人らしく生きていくことができるようにという願いが込められています。



〔上〕利用者の方と一緒に食べる昼食をつくるスタッフ 〔下〕母子ともに心地よく過ごせる空間を日々思案し、つくっている

本事業は、同市でこども・子育て家庭の支援を行っているNPO法人さんまと共同で運営され、ソーシャルワーカーや助産師、保育士など、さまざまな専門性を持ったスタッフが中心となり、宿泊・日中の居場所・自宅訪問を通じて、妊産婦の利用者とその家庭をサポートします。利用者一人一人が背負ってきたものの大きさや複雑さを知り、社会や環境に対する憤りや失望を感じることもありますが、途方に暮れる私たち大人の横で、無邪気な笑顔を浮かべるこどもたちや小さな手足を必死に動かしている赤ちゃんを見ると、人が生まれながらに持つ力の大きさと美しさに気づかされる日々です。

2024年度は、「ふたやすみ」本格始動の年になります。利用者やその家庭とともに悩み、試行錯誤し、地域内外の人々とのつながりを築きながら、困難の連鎖を希望の連鎖に変えていくため、精一杯取り組んでいきます。

Partnership with

さんま
Sma

2023年度支出実績

2,730万円(人件費含む)

「ふたやすみ」について詳しくはWEBサイトから

ふたやすみ
futayasumi



ふたやすみ

検索

<https://futayasumi.jp>

親を頼ることができない若者たちに、 つながりと選択肢を保障する

児童養護施設などを退所した若者の巣立ちの応援事業

虐待被害の経験があり、進学や就職をきっかけに児童養護施設などを退所して新しい生活を始める若者には、頼れる人とのつながりが不可欠です。施設や里親家庭にいる間は身近にいる職員と喜びや悲しみを共有したり、困ったことがあれば相談することができます。退所した後も職員とのつながりがあれば、生活での困難を抱えたとしても相談し、一緒に考えることができます。一方で、つながりが途切れ、経済面や精神面の課題を抱えたまま社会から孤立してしまう若者も少なくありません。

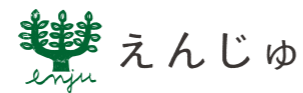
2023年度は、若者が退所した施設の職員とつながりを持ち続けられることと、施設職員と関係機関の連携により若者に新たなつながりを作り出すことを目指して活動してきました。そのために千葉県にある児童養護施設に専門家を派遣し、退所者に対する相談支援への助言と、退所者への支援を専門に行う職員を配置するための職員採用の支援を実施しました。また、施設職員が他地域の退所者への支援の事例を学ぶとともに、支援者同士の新たなつながりをつくるための2日間の千

葉・東京・神奈川合同の研修会の開催・運営をサポートし、延べ170人以上の施設や行政、アフターケア事業所*の職員などが参加する機会をつくることができました。

また、アフターケア事業所への訪問やヒアリングを通じた調査を始め、まずは9つの事業所から各地の退所者に対する支援の状況について話を伺いました。どの事業所も少ない職員でたくさん相談に乗っていることや事業所の数が少ないなかでそれぞれの強みを活かしながら活動していることがわかりました。2024年度からは、全国各地のアフターケア事業所が加盟するネットワーク組織「えんじゅ」と協働し、事業所の交流や学び合い、政策提言などを行っていくことで、多くの若者たちが安心して生活できる仕組みをつくることを目指していきます。

※アフターケア事業所：施設などを退所した若者が交流する場をつくり、生活や仕事に関する相談支援などを行っている事業所。

Partnership with



2023年度支出実績

1,835万円(人件費含む)



千葉県で開催された3都県合同研修会の様子

こどもの尊厳が大切にされる「こどもに やさしいまち」の実現に向けて

地域の創発・協働事業

千葉県松戸市において、こども・家族の支援者の連携・協働を深めて、虐待や孤立の予防・早期発見につながる取り組みを続けています。2020年からの3年間で休眠預金などを原資とする助成金を活用した「コレクティブ・インパクト事業」からの流れを引き継ぎ、さらに発展させてきました。

2023年度は、支援者たちが官民の垣根を超えてフラットに対話を重ねて関係性を築く「地域円卓会議」の開催に加えて、より具体的な課題(つながりづらいこども・子育て家庭への見守り・支援など)に対して議論を深める「検討ワークショップ」も行い、延べ100人を超える参加者がありました。連携・協働が深まったひとつの成果物として、松戸市の各地に点在するこども・家族の支援者の思いや得意領域が見える化された「支援者マップ」が完成しています。

そして、2023年度から始まった取り組みが「こどもにやさしいまち、まつど」キャンペーン」という市民運動の支援です。こどもの権利が大切にされ、誰もが安心して暮らすことができるまちづくりを目

指し、まずは市民活動団体の有志がチームをつくり、賛同した市民・若者たちが参加して活動がスタートしています。2023年10月にはこどもの権利について深く考えさせられる映画「夢見る小学校」と「ゆめパのじかん」の2本立て上映会&監督講演会が行われ、延べ310人の参加がありました。



映画上映会の運営を担った実行委員や市民活動団体の有志

2024年度は、松戸市の地域でのさらなる広報・啓発活動に取り組むとともに、こども・若者自身と市民の参加を大切にしながら「こどもの権利条例」の制定に向けた動きを本格化していく予定です。

Partnership with



2023年度支出実績

749万円(人件費含む)



千葉県松戸市で開催されたこどもをテーマにした映画上映会

Gift

ともに歩み、奏でる

2024年4月18日～20日の3日間、インド・ニューデリーにて、「リーダーシップネクスト・体験型ワークショップ会議」をコロナ以降初となる対面開催。リーダーシップネクスト事業のサバイバーグループやNGO関係者と財団関係者が参加した。「被害者性からリーダーシップへ」をテーマに、即興劇やパネルディスカッション、グループディスカッションを実施。また会場は各サバイバー・NGOグループのブースが所狭しと並び、熱気に包まれたイベントとなった。

written
by
清水 友美
TOMOMI SHIMIZU

REPORT FROM
INDIA
インド事業報告

「心を打つ、よどみない サバイバーリーダーたちの言葉」

かものはしがリーダーシップネットワーク事業(以下、LN)の支援を開始してから丸6年が経つ。3つのサバイバーグループ、4つのNGOから始まったこの事業は、現在15のサバイバーグループ、7つのNGOが参加するまでに拡大した。

2024年4月、デリーで総勢115人が参加する3日間イベントを開催し、この事業を支えるかものはしインドチーム総出で切り盛りした。かものはしを支援してくださっている日本企業の方たち、共同事業支援をしている国際ドナーの方たち、この事業に関心を寄せてくださっているインド企

業財団、国際ドナーの方たち、中間支援団体の方たちと私たちはたくさんの会話を紡いだ。

「言葉にならないよ。あの、サバイバーリーダーたちの迷いのなさ、明晰さに心を打たれた。10年後どうなっていたい?と突然聞かれたって、僕でも答えるのに迷いが生じるのに、よどみない言葉で言い切った彼女に心が震えた」

「インドは世界5位の経済大国になったけれど、サバイバーリーダーたちの経済状況を改善するまでには全然至っていない。久しぶりに涙が出てきた」

「人に売られ、性的虐待・労働搾取をされるという逆境体験は、人に強い怒りと深い悲しみを残していく。鬱になって引きこもりになってもおかしくないのに、この事業は彼らのそのエネルギーを見事に前向きな美しいエネルギーに転換している。一体、NGOたちは何をしたんだ?」

「どんなに訓練を受け『回復』したサバイバーでも、ステージに上がった途端泣き崩れ、結局スピーチにならないことを自分たちの事業で何度も体験してきたのに、これは一体何が起きているの?」



[1] 即興劇に参加し、影響力を行使し合い、解を探るサバイバーリーダーとNGO職員
[2] 会議場で、自分たちのこれまでのリーダーシップ軌跡を展示しているPragyaの職員
[3] 会議を進行しながら談笑する清水とLeadership Next事業マネージャーのVinod
[4] 会議冒頭あいさつをする清水 [5] インドのNGOや財団の人たちとネットワーキングする青木 [6] 「Fire Chat」というツールを使ったパネルディスカッション
©Raj Sekhar / Kamonohashi Project

私の中にある無数の 「被害者性」

たくさんの人に「観てもらおう」のはどうしても緊張が走る。「知ってもらおう」ために、私は自分たちが歩んできた軌跡を遜色なく、相手の興味をひく方法で伝えることができるだろうか?こんなに素晴らしい、美しいと思っている事業が実は単なる自己満足だったなんてことはないだろうか?そんな不安が次々と襲ってくると、オープニングで何を話すべきか、私は足がすくんだ。

場数を踏んできた私ですらそんなのだから、NGOたちやサバイバーリーダーたちのナーバスさは手に取るように感じる。そこを突破して、本当に厳しかったコロナの2年間を含めてなんとか皆で乗り越えてきた私たちの「あり方」を観てもらうためには、「場」を構成する人たちが本来持っているエネルギーを引き出し、ホールドする役割が必要となる。

この事業を牽引してきた彼ら・彼女たちが持つエネルギーを、萎縮して足がすくむ方向ではなくあるがままの形で、フェイクではなくオーセンティックに解き放つために、何をどう仕込むか。3日間イベントにおける私の役割はこれに尽きた。

「被害者性からリーダーシップへ」。このタグラインは、人身売買の被害を生き抜いてきた彼ら・彼女たちの変容を形容するとともに、私たち非当事者にも当てはめられたものである。両者の間にある、目には見えないけれども歴然と存在している、そこを隔てているもの。私たち非当事者は「被害者」はあの人で、私は被害者ではない」という言説を掲げ、そのヒエラルキーの中で安住していないだろうか?人は誰しも、大なり小なりの被害者性を抱えて生きている。

でも、それを認めるのは、時に容易ではない。2014年第1回Tafteshミーティングで行ったワークショップのテーマ「私の中の被害者性を共有する」を思い出す。

例えば私は小学校の遠足にピンクのレインコートを着たかったが母に「あなたには黒が似合う」と言われた。きっと母は「あなたは



清水 友美

TOMOMI SHIMIZU

インド事業部ディレクター。2年間のインド駐在を経て、2013年7月からかものはし日本事務所勤務。大学院修士過程修了後、国際機関や人道支援機関で開発援助事業に携わる。

きりっとしていてかっこいい」と言いたかったのだろうか、当時8歳の私には黒のレインコートはごみ袋と同義で、「お母さんは私を女の子としてかわいくないと思っている」と思い込んだ。

別の事例では、男性同僚に「あなたは女性で、自分は女性の上司の指示は認めない」とあからさまに無視をされた。

これらはあくまでも小さな事例にすぎないけれども、この様に私の中には無数の被害者性があり、この10年、私の被害者性は減るどころか、気づいてしまったからどんどん増殖した。それでも、それを口にし、周りの温かな人たちによってたくさん悼まれ、慈しまれてきたから、私自身もそれらの被害者性を自分のものとするができるようになった。

そしてそのプロセスの中で、「あなたは被害者で私は違う」と意識



2024年4月のデリーで開催したLN体験型ワークショップ会議に参加したサバイバーリーダー、NGO関係者、財団関係者、かものほし関係者たち
©Raj Sekhar / Kamonohashi Project

的に、無意識に分断を作り出すことで、私たちは自分の心理的安全性を保ち、ヒエラルキーを形成し、更に分断を強化していることに気づいた。そんな気が私の行動変容を促し、結果として、私はサバイバーリーダーたちと、現場を支えるソーシャルワーカーたちと絆を作り、育くむことができたのではないと思う。

頭と心の分断

かものほしがインドで支援を始めて最初の5年は、サバイバーリーダーシップ事業なんて1ミリも想像したことがなかった。私たちは加害者が逮捕され、有罪判決率が上がり、人身売買抑止力が高まることで問題解決に寄与するというTheory of Change(社会変革理論)を貫いてきた。法改正を含めて、システムを相手にすることで、人身売買の問題を国レベルで解決できるモデルを作るんだと意気込んでいた。

でもその一方で、目の前で子どもたちが虐待を受けながら囚われていることや、彼らが数年後、競りにかけられ性的搾取を目的に売られていくことを知っていたが、システムを強化することが最重要という正当性のもと、システムが強化されるまでその状況に目を瞑らざるを得なかった自分にどうしても納得がいかなかった。心が追いつかなかった。最善を尽くしたという理性と、本当にあの時の自分の選択は正しかったのかという自責の念とがごちゃ混ぜになり、ふと叫びだしたくなり、涙が出てくる。頭は割とすっきりしていたけれども、私の胃の中には黒くて硬いしこりが残った。

LNの特徴は、それぞれのサバイバーグループが、自分たちにとってリーダーシップとは何かを自分たちで定義し、何の活動をいくらの予算で実行するのかを自分たちで決めるというところにある。

自分をレスキューし、ケアし、生活再建を手伝ってくれた、ある意

味「親」のような存在のNGOとの関係性を捉え直し、そこに歴史と存在するパワーの不平等性に真正面から優しくしなやかに挑み、是正することで、若き大人として自立していくプロセスでもある。

そして、自分自身との関係を紡ぎ直すことで、家族やグループ内、コミュニティとの関係に変化が生じてくる。

一方、NGOにとってはこれらのプロセスは痛みを伴う。今まで自分たちが無自覚に行使してきたパワーをサバイバーたちと共有し、そして譲っていかざるを得ない。自立していく彼らを見た時、自分の存在意義が揺らぎ、自分はどう必要とされていないのかわからない、自分は一体何者で、本当に望んでいるものは何なのかといった問いが必然と生まれ、深く長い旅路に進んでいく。何のリーダーシップ活動をしていても、これらの要素は横串となっており、コレクティブなプロセスとして事業内で流れている。

背中を預けられる関係性へ

LNが、例えば前出の、囚われ、虐待を受け、性的搾取をされる準備をさせられている子どもたちのような全ての問題を今すぐ直接解決するわけではない。

でも少なくとも、私はこのリーダーシップの道を歩んでいる彼ら・彼女たちなら、あの状況に直面したら真剣に戦略と手法を話し合い、速やかに子どもたちを救い出すことを知っている。

子どもたちの痛みを一番理解しているのは、同じような境遇・体験を持つ彼ら・彼女たちだから、彼らは見て見ぬふりをしない。そ

してそれは、私の中の罪悪感、黒くて硬いしこりを少し和らげてくれる。なんだ、一人で全部背負い込む必要はなかったんだ。むしろ、私が非当事者だからこそ取る役割は自分の中にある被害者性から目を背けず、当事者性を持つリーダーたちとの絆を更に深め、「理解されている」「つながっている」という安心・安全な器を広げていくこと。

そしてより多くのサバイバーたち、子どもたちにこの事業のエッセンスが届くようエコシステムに影響を与えていくこと。そして、その先に、先に起きたような悲しい事象

が起こる、または続いていく可能性を低減していく未来を描き続けること。私が取べき役割をちゃんと取ったら、あとは、リーダーたちが、ソーシャルワーカーたちがちゃんと引き取ってくれる。だって、この3日間であんなに多くの人たちの心を動かしたのだから。

「被害者性からリーダーシップへ」は、『ひとり』から、背中を預けられる関係性へ」の旅路でもある。

あなたと一緒に考えたい

#尊厳

Let's think together what "Dignity" means

世界各地で、自分たちが正しいと考えるものを基軸に、対立が深まっています。その文脈では、私にとっての尊厳は相手にとっての不条理、ということもしばしば発生します。日本は古来から「尊厳」を大切にしてきたからこそ、今できることがあるのではないかと私は思っています。みなさんも「わたしにとっての尊厳は、相手にとっての不条理」という経験をしたことはありますか？

あなたのほめてあげて



TAFTEESH

[タフティーシュ事業]



タフティーシュ会議に参加するサバイバーリーダー

人身売買の被害にあった女性たちが権利・正義を取り戻せるよう、刑事司法制度や福祉制度の強化に取り組むタフティーシュ事業は、2013年の開始から11年が経ちました。

この事業は、①トラフィッカー（女性たちをだまして売春宿に売る者）が適切に捜査され、裁判で有罪判決が出されること、②人身売買の被害に対して適切な被害者補償を国から受け取ること、③人身売買の被害から適切に回復できるよう州・県の支援を獲得すること、④人身売買の犯罪が抑止できる法律や政策に関与すること、を主な柱として支援しています。

今年1年の変化

この1年を振り返ると、3つの大きな出来事がありました。1つは、インドの刑法、刑事訴訟手続法、証拠法の3つが大幅改正となり、議会の承認を経て施行されました。刑法及び刑事訴訟手続法の大幅改正は人身売買の問題に次のようなインパクトをもたらしています。

(A) 人身売買包括法案の相対的重要性と緊急性が低下し、国会内での勢いが大幅低減、(B) 人身売買犯罪の捜査・取締機関が更に不明瞭となる、(C) 表面上は人身売買をはじめとする犯罪捜査・取締に耳障りがいい条項が並ぶが、実装手法につ

いては書かれていないので、大幅な混乱が予想されます。

2つめは、これまで7年間タフティーシュ事業をかものはしと共同支援してきたOAK財団が、予防事業を支援することに合意し、タフティーシュ予防事業が2023年10月からスタートしました(次ページ参照)。

3つめは、タフティーシュMIS(情報管理システム)が完成し、パートナー団体が懸命にケースマネジメントのデータ入力を行った結果、事業のこれまでの10年間パターン分析が可能となり、その分析結果を次の事業提言に活かせる体制が整ったことです。パートナー団体によっては、このデータ分析結果を「知的資本化」し、事業をさらに拡大するために使うべきだと活動につなげています。

パターンから抜け出す

一方、かものはしは事業モニタリングを続ける中で、この10年タフティーシュ事業を行ってきたパートナー団体たちが、戦略と夢を見失った事に気づきました。事業戦略を「実施する」主体という役割を長く続けることで、夢や戦略は誰かが描いてくれるもの、というパターンが出来てしまっていたこと、そして人身売買の問題を解決するための体系的アプローチに対する政府からの締め付けが強くなってきたことなどがその背景にありました。

そのため、2023年度は、2035年のタフティーシュ・ビジョンを作成するとともに、各パートナー団体ごとに組織・事業ビジョン、5ヶ年計画を作成することを徹底しました。現時点でも、その産みの苦しみが

が続いていますが、タフティーシュの次の10年の飛躍のため必要な苦しみだと、皆で粘り強く取り組んでいる真っ只中にいます。



一年の自分たちの活動振り返りをするタフティーシュメンバーたち

Partnership with



directed by

change mantras

2023年度支出実績

4,560万円

LEADERSHIP NEXT

[リーダーシップネクスト事業]

新たなエネルギーで再出発

2018年に開始したリーダーシップネクスト事業は、人身売買の被害を生き抜いてきた人たちが、被害者からサバイバーへ、サバイバーからリーダーへ成長し、社会を変化させていくことを検証する事業です。2023年からBRITISH ASIAN TRUSTが共同出資をし、活動地域を3から6州に拡大、新たに3団体と279人のサバイバーたちが加わりました。かものはしは多様なリーダーシップのあり方がどのように社会運動化し、インパクトを出すのか継続してモニタリング・調査を行っています。

今年度から参加した団体達は、鉱山で児童労働や性的搾取の被害にあった山岳民族のこどもたち、ネパール国境の村々からラジャスタン州のバングル工場に労働搾取を目的とした人身取引の被害にあった男の子たち、ラジャスタン州の山岳民族地域から隣州に出稼ぎに行く過程で性的搾取や労働搾取の人身取引の被害にあった女性たちを支援しています。被害にあったこども・女性たちをグループ化し、学校へ戻る支援をしたり、地元政府に村への電灯導入、無償での医療提供を要求するなどの活動を行っています。これまで当該事業に参加するサバイバーは成人女性が全体の98%でしたが、新規サバイバーの事業参加により未成年率が33%、男性率(未成年男子含)が21%となり、構成が更に多様化しています(総数は179人から486人へ)。

2023年度、ILFATは団体登記を完了させ、2つの賞金を獲得、役職ごとの役割理解を深めるなど、団体基盤強化を進めてきました。また、インドが議長国であったG20の会期中、CIVIL SOCIETY 20(C20)

が開催されており、ILFATメンバーはC20のパネリストとして招待されたり、C20宣言にその主張が掲載されるなど、リーダーシップを発揮しています。

※ILFAT: インド反人身売買リーダー連盟(Integrated Leaders Forum Against Trafficking)



ロールプレイを通じて、リーダーシップの成長した点、盲点や癖について考察するリーダーたち

Partnership with



co-financed by



directed by



期間 / 事業費

2022年12月～2025年4月 /
118,994,885ルピー(約2億1,776万円)

2023年度支出実績

5,790万円

TAFTEESH RESILIENT COMMUNITIES

[タフティッシュ予防事業]

特定のグループの人たちが
人身売買の被害にあいやすい理由

かものはしは、人身売買の加害者を逮捕し、有罪判決を出すことが人身売買問題の最大の抑止力となり、ひいては予防になると考えてきました。2020年～2022年に人身売買の「予防」は、世界的にどのように定義され、各国で実施されたた予防事業はどんなインパクトを出してきたのか、また、西ベンガル州でこれまで行われてきた人身売買予防事業とはどのようなもので、地元コミュニティの人たちはその事業インパクトをどう捉えているのかについて、2つの調査を行いました(2021年度年次報告書参照)。

調査結果の中で私たちの考え方に特に影響を与えたのは、これまでのかものはしの「予防」の定義は、6つある予防アプローチの一つにすぎない、ということと、リサーチャーとなったサバイバーリーダーたちとソーシャルワーカーたちが定義する「人身売買の被害にあいやすい脆弱性」要因には大きな違いがあったということです。貧困が脆弱性要因と主張するソーシャルワーカーに対して、サバイバーリーダーたちは、親子間での感情的つながりの欠如が他の社会・経済的脆弱性と絡まったときに、最も大きな脆弱性を生み出すと主張したのです。

これらの調査結果をもとに立ち上げた事業が、タフティッシュ予防事業(TRC)です。人身売買の被害者が多いイスラム教徒の女性・こどもたちと、ジェンダーが多様なこどもたち・若者を対象に、親とこどもたちの感情的つながりを再生するような取り組みや、周縁化されたコミュニティが自分たちで立ち上がり、地元政府に保護される権利を訴えていくこと

ができるよう、TRCのパートナーグループたちは取り組みを始めています。特筆すべきは、今回の事業から3つのサバイバーグループが実行主体としてNGOと肩を並べて活動している点で、彼らを持つ当事者としての体験が事業実施プロセスでどのように発現され対象コミュニティに影響を与えるのかに注目しています。



人身売買の被害にあいやすいジェンダーが多様なこどもたちについて、村の女性たちにインタビューをするBijoyiniリーダー

Partnership with



directed by



期間 / 事業費

2023年10月～2026年9月 / 617,438ドル(約9,349万円)

2023年度支出実績

869万円

REPORT FROM
SOCIAL COMMUNICATION

「あなた」に伝えて 「わたし」を増やす

ソーシャルコミュニケーション事業報告

「あなた」に伝えたいのは、わたしたちと一緒にその問題を解決する「わたし」たちになってほしいということ。サポーターになる、寄付する、スタッフになる、ボランティアをする、声を上げる、だれかに伝える、心で祈る。どんなことでも、「あなた」の思い、行動は社会を変える力(=市民の力)になります。みんなが「わたし」になれば、大きな力となって、社会は変わります。だから、わたしたちは、みんなが「わたし」でいる社会を目指して、「あなた」に伝え続けます。



国籍や年齢、性別を問わず、さまざまな人が集まり、市民としてそれぞれが感じたことやできることを話し合っている輪の中にあなたも入ってみませんか？

皆さんの「思い」を集め 大きな力に変え、 一緒に社会をつくりたい

written by



南谷 友香 TOMOKA NAYA

ソーシャルコミュニケーション事業部マネジャー。事業会社2社での事業企画と事業開発の業務、青年海外協力隊でのコミュニティ開発の経験を経てかものはしの取り組む事業に共感し、2021年1月に入職。

あなたの思いが誰かの心を、 社会をきっと動かします

長年かものはしではたくさんの方がサポーター会員として応援くださり、2023年度末時点では17,498人もの方々に、活動を支えていただいております。

会員になってくださった方々、かものはしを応援してくださった方々の思いに触れるたびに、社会はきっとよくなっていくという希望を感じます。

私たちが向き合っている社会課題はとてつもなく複雑で大きいですし、国や企業に比べたらお金や人といったリソースは劣って

しまうけれど、NPOには「市民社会」をつくりあげている一人一人の思いという大きな大きなリソースがあります。

サポーター会員の方から時々「自分は無力なので」「少額の寄付ですみません」「現場に行けなくて申し訳ないです」というようなメッセージをいただくことがありますが、課題を知っていた、思いをもって1つアクションをしていただいたことが、どれだけ社会に対する影響力のある大きな力なのかを感じていただけたらなと思っております。

NPOで働いているという話をすると、友人や周りの方から「すごいね、自分にはできない」「想像がつかない」などと声をかけられることがあります。私も社会を構成する一市民です。

共同創業者の村田の講演では、よく「普通の人で社会を変える」というメッセージを伝えています。普通の大学生だった自分が「なんとかしたい」という思いをきっかけに、その思いを持ち続け、伝え続け、行動し続けることで活動を前進させてきたという話に、内部の職員ながら毎回大変勇気づけられます。何か資格や専門知識を持っている人、特別な人が社会を変えるのではなく、「普通の人」、この社会に生きている私たちに社会を変える力が元々備わっていると思います。

想像してみてください。一人一人が、起きていることを「誰かのせいである」と批判するのではなく、もしかしたら自分の身にも起きているかもしれない、自分にも



自身の周りで「なんとかしたい」と思っていることをテーマに対話している様子

何かできるかもしれないと思い、小さなアクションを起こしたら…

社会課題は遠い存在で、自分の生活とは関係のないことのように感じることもあるかもしれませんが、実はその社会を作っているのは私たち一人一人。

私たちのだれもが当事者であることに気づき、その一人一人がそれまで知らなかった社会課題や、その課題の背景にある構造を知ることから社会の変化が生まれていくと、私は強く信じています。

私たちと同じように社会課題を知り、関心を寄せて、一歩を踏み出し、一緒に歩んでくださる方たちがいることが、私たちの活動の力になっています。お一人お一人の思いこそが社会を変える大きな力です。

かものはしの接点が自分のもっている思いの力に気づききっかけになればという思いで日々の取り組みを行っています。



「全国活動報告ツアー」名古屋にて。今年も全国の皆さまに会いに行きます！

尊厳を大切にしあえる社会を 皆さまとともに育む

コロナ禍も落ち着き、対面でのイベントが叶うようになった2023年度から、サポーター会員さんと直接お会いして、かものはしプロジェクトの取り組む課題や活動の現状を知っていただく、「かものはし全国活動報告ツアー」という東京から飛び出して各地の皆さまにお会いしに行く報告会を始めました。

この報告会では、「なぜ会員になってくださったのか」「日本のこどもの問題について思っていること」や「今、なんとかしたいと思っていること」などについて一緒に考えていく対話の時間を持たせていただいております。

2023年度は東京・名古屋で説明会を開催したのですが、かものはし

しを応援してくださっている背景にある思いや、関心を持っている社会課題、サポーター会員さんご自身が自分のまわりで取り組んでいることなど、本当に話が盛り上がりました。その熱量の高さに、暗いニュースも多いけれど、それでもこんな風に考えてアクションを起こしてくださる仲間がいる、と実感し、私たち自身が「社会はきっとよくなる」と信じていることができる、希望を持つことができる場となっています。

ありたい社会はどんな社会なのか、という真面目な話を、真正面から遠慮なく話し合い、一緒に考えることができるこういった場が、参加された方にとって自分の中にある思いに気づききっかけとなれたら嬉しいなと思っております。

私たちソーシャルコミュニケーション事業部は、一人でも多くの方に社会課題やかものはしの活動を知っていただき、社会課題を自分ごととして捉えてアクションする人の輪を拡げていくことで、社会を変えていきたいと思い活動しています。

大きな社会課題を目の前にしたときに、一人一人の小さなアクションを無力に感じることもあるかもしれません。

ですが、一人一人の小さなアクションが積み重なり、他の人のアクションと連鎖していくことで、本当にパワフルな社会を変えていく大きな力になると信じています。

皆さんの「なんとかしたい」という思いは社会の財産だと思っています。

「なんとかしたい」思いを持ってくださっている皆さまとともに、どうしたら尊厳を大切にしたいか

会を育んでいけるか、これからも試行錯誤しながら新しい取り組みを続けたいと思いますので、ぜひ一緒に考え歩んでいけたら嬉しいです!



支援者の皆さまと社会について考える「全国活動報告ツアー」を開催！初回の東京にて

Let's Try!

一人一人の小さなアクション

人と接する際、相手の尊厳を大切にすることを意識する

近所や職場の人など自分の周りで何か困っている人がいたら声をかけてみる

社会問題について身の回りの人と話してみる

ボランティアやプロボノとして活動してみる

応援したい活動に寄付をする など



あなたと一緒に考えたい

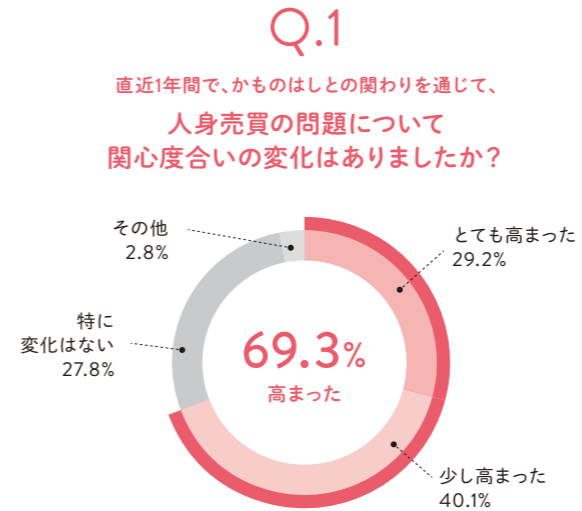
#市民の力

Let's think together what "The Power of Citizens" means

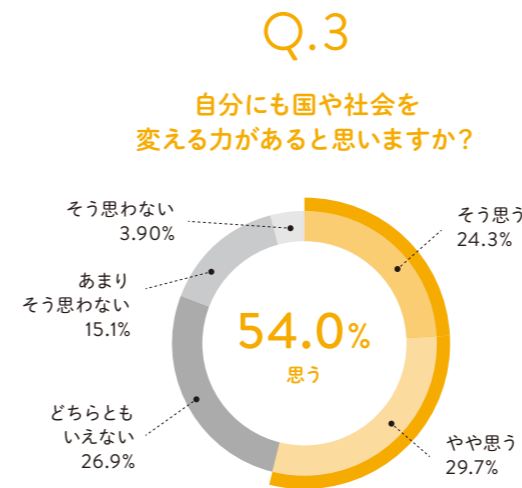
友人との会話で、人身売買や児童虐待が話題になることはなかなかありません。一方で、職場のここを変えたい、子育てがしんどい、この社会制度はおかしいなど、身近な「なんとかしたい」ことについては、よく話していることに気づきます。話してみることで、市民の力の第一歩だと思っています。普段の生活の中であなたが気になっていることは何ですか？

アンケートを実施しました

2024年3月、メルマガにご登録いただいている皆さまにアンケートを実施し、740人の方にご回答いただきました。



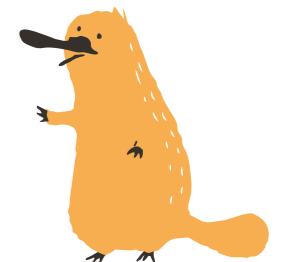
約7割の方が関心を高めている
約7割の回答者の方々が人身売買や児童虐待の問題への関心を高めているということがわかりました。これは何を皆さまにお伝えすべきか日々悩んでいる私たちにとって、とても励みになる結果でした。



約5割の方が“あると思う”と回答
問題の大きさを前にすると自分の力の小ささに目が向いてしまいがちですが、私たちが想定していたよりも多く、自身の力を信じている方々がいらっしやりとても嬉しく思いました。

ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました!

今回のアンケートは、私たちソーシャルコミュニケーション事業部の活動が、どれほど皆さまに届いているのかを把握するため実施しました。引き続き、皆さまにかものはしが取り組む人身売買や児童虐待の問題や活動について、お伝えし続け、また、「社会を変える力がある」と思ってください。皆さまとともに、どのようなアクションを起こしていけるのか、引き続き考えていきたいです。



なんとかしたい! People

かものほしには、それぞれの「なんとかしたい」という思いを持った方々が正会員、サポーター会員、寄付者、プロボノ、スタッフ、インターンなどさまざまな形で参加してくださっています。そんな皆さんを「なんとかしたいPeople」としてご紹介します!



佐々木 剛さん
正会員

自己紹介

ライブや舞台、映画に足繁く通うオヤジです。昔からNPOに関心が強く、大学院でもNPOのマネジメントを学びました。多くの頑張る人と繋がりたいとあちこち出掛けます。正会員6年目。

参加のきっかけ

長らく途上国の問題への関心が強く、偶然、本屋で村田さんの書籍に出遭い、説明会に参加してサポーター会員になりました。コミュニケーション担当の皆さんが素敵な人ばかりで、ずっと応援を続けたいと思っています。

「なんとかしたい」思い

NPO・NGOやそこで働く人がもっと「適正に」評価される社会の雰囲気を作りたい。そのためにはNPO・NGOが必要かつ妥当な経営能力を身につけることを後押ししたい。

「市民の力」を引き出すためには何が重要だと思いますか?

世の中には心に秘めた「will」を持つ人が数多くいます。その気持ちを上手く表現できる機会を得て、草の根で活躍する「仲間」の姿に触れるチャンスを増やすことが大切だと思います。



臼井 礼奈さん
サポーター会員

自己紹介

サポーター会員の臼井礼奈と申します。趣味は「ココ!」というほど愛犬ココを溺愛しています!人、食べること、お花、春が大好きで、つづろぎや気付きを届けるカウンセラーをしています。

参加のきっかけ

寄付先を増やしたいという思いと、当時私が感じていた人身売買の問題と、日本でのケアが足りていない現状に対し、何が出来るだろうと探したところ、理想のことをされていたのがかものほしさんでしたので参加しました。

「なんとかしたい」思い

全ての人たちに自分が生きたいように選択ができる自由があり、お互いを尊重し合い、相手の幸せや平和を祈ることが出来る優しく温かい世界にしていきたい。

あなたにとって「子どもの権利を大切にすること」とはどういうことですか?

子どもの意見を尊重し、子どもたちが安心して行動していけるように、大人たちが知識をつけ、心に余白を持って子どもと接すること。



藤田 健太郎さん
寄付者

自己紹介

30代会社員です。趣味は登山、バレーボールなど体を動かすことです。今年は仕事にも直結する当事者支援、性犯罪抑止のための学び直しに力を入れています!

参加のきっかけ

人身売買に関わる海外のNPOのイベントに参加したことがきっかけ。そこから人身売買の本や日本の団体のイベントなどに参加する中でかものほしと出会いました。

「なんとかしたい」思い

約20年、仕事で性犯罪抑止に関わってきたのにも関わらず人身売買に注目することはありませんでした。この情報に触れたときの衝撃は忘れられません。自分の人生のミッションに掲げ闘っていきます。

あなたにとって「尊厳を大切にされる」とはどういうことですか?

ひとりの人間として理解され、扱われること。逆にひとりの人間として理解し、扱うことも大切。命は尊く、雑に扱われてよい命はこの世にはいません。



江原 由梨さん
プロボノ(アビームコンサルティング株式会社)

自己紹介

本業では総合商社さまのシステム関連プロジェクトを担当しています。旅行・ラン・ダンス・食べ歩き・ピアノ・仕事…などで時間に追われがちですが、ゆとりを持つことを目指しています!

参加のきっかけ

こども・教育関連の社会課題に関心があり、大学時代は比較教育社会学専攻でした。入社時の新入社員向け社内活動説明会にてかものほしの活動内容に魅かれて以来、コンサルティング業務と兼務でのプロボノやサポーター会員として関与しています。

「なんとかしたい」思い

置かれた環境のせいで子どもたちが傷ついたり、制約が大きかったりする現状をなんとかしたい。自身にできることから行い、お互いの行動を応援し合えるような雰囲気を作りたい!

あなたにとって「子どもの権利を大切にすること」とはどういうことですか?

全ての子どもたちを人として尊重すること。子どもたちが自分らしく幸せに過ごし、健全に成長して明るい将来に進めるように寄り添うこと。

「なんとかしたい」を大きな力に変えていく

これを読んでいる皆さんのなかにも、「なんとかしたい」という思いを持っている方が、たくさんいると思います。かものほしは、そんな一人一人の思いが繋がれば、大きな力(=市民の力)になっていき、社会を変えていくことができると信じています。今後、WEBサイトでも「なんとかしたいPeople」として紹介していく予定です!



金沢 綾乃さん
インターン

自己紹介

かものほしのインターンとして活動報告イベント担当をしている金沢です。最近暖かくなったので、家の周りをよく散歩しています。

参加のきっかけ

塾講師のアルバイトをしていて、児童虐待や貧困といった問題が身近に生じていることに気が付きました。大学生としてこどもの問題にしっかりと向き合ってみたいと考え、かものほしのインターンとして活動することを決めました。

「なんとかしたい」思い

一人の力だけで社会問題を解決することは難しいですが、なんとかしたい思いが繋がっていけば何か変えられるかもしれない。私は、インターンとしてより多くの方に問題を認知していただけるように活動していきたいです。

あなたにとって「尊厳を大切にされる」とはどういうことですか?

私は、自分のことは自分で決めて、ありのままを表現できることだと思います。また、自己主張をするだけでなく、多様性を認めていくことも大事な要素だと思います。



稲川 望さん
スタッフ

自己紹介

経営管理部のスタッフです。グローバルな社会課題に対する関心が強く、大学時代からアジアの国々を訪れていました。今は、複数のNGOに関わりながら活動しています。

参加のきっかけ

大学時代に南アジアの人身売買問題を学ぶ中で、かものほしプロジェクトを知りました。社会を根本的に変え、持続する取り組みを行うポリシーに共感していました。その後、活動を通してご縁があり、2023年に入職しました。

「なんとかしたい」思い

誰もがきょうを健やかに、穏やかに暮らせる社会でありたいです。そして、私たち市民がそれを実現する存在でありたいです。

「市民の力」を引き出すためには何が重要だと思いますか?

日常に宿る、小さな自分の願いに気付くところから広がっていくと思います。その願いを共有し、誰かと一緒に取り組むことで大きな力になる。そうして市民の力が変化をもたらすと思います。



お知らせ

組織を超えた連帯と協力、 市民社会を育む新たな取り組みを 始めています

かものはしプロジェクトのミッションである「尊厳を大切に、大切にされている世界」は、この社会のあらゆる取り組み、営みに通ずる広大なテーマです。実現のためには、多様な主体と協力して実現することが求められます。そこで、BASECAMP～互助の会～(通称:互助会)と呼ばれる新たな取り組みをはじめました。組織を超えて学びあい・助けあうことで、多様な主体が活発に活動する市民社会を育むことをめざしています。



外部講師を招いて合同勉強会を行う様子

6団体11名からスタートし、現在は各団体の職員にもその輪が広がりつつあります。具体的には合同勉強会や研修、経営相談、実務上のナレッジ共有などを通じた協力事例が生まれています。

編集後記

今年の年次報告書は いかがでしたか?



編集長
樋山 真希子

今年は、かものはしの大切な価値観である「こども、尊厳、市民の力」というエッセンスを分かりやすくお伝えすることを意識して制作しました。かものはしの活動は、関わるすべての人の活動であり、皆さまの人生の一部です。普段の生活のなかで、意識することは少ないかもしれませんが、皆さまの思いと行動で、「インドと日本の社会が変わっている」ということを、この年次報告書を通して少しでも実感していただけたら嬉しいです。



スタッフ
南谷 友香

年次報告書を作成する過程で、本当に多くの方の応援や協力によって活動を進めることができていることを改めて感じ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。いつも本当にありがとうございます!多くの壁や葛藤を抱えながら日々事業と向き合っている私たちの様子をお伝えさせていただきましたが、いかがでしょうか。年次報告書を通じて皆さまに伝わった何かが、育みたい社会づくりのきっかけとなったら嬉しいなと思っています。



スタッフ
金井 宏之

私は日本事業部に所属しているので、日本での活動の様子を皆さまにわかりやすく伝えることで、関心を持っていただけることを願いながら、年次報告書の制作に携わりました。特集や日本事業報告の記事が、皆さまが日本での課題を知り、身の回りでも何かできることがないか考えていただける機会となれば大変嬉しいです。これからも皆さまの力をお借りしながら、一緒に日本での課題に向き合っていきたいと思います。



デザイナー
生駒 浩平
sai company

多くの方に分かりやすく読んでもらえるように、昨年度はデザインを大きく変えましたが、今年度はもう一歩踏み込んで、内容をもっと分かりやすくなるように編集チームのみならずとチャレンジしました。読んでくださっている皆さんの興味関心がより深まったり、広がったりすることが、市民の力となり大きな力になっていくと信じています。

ご支援いただいた企業・団体の皆さま

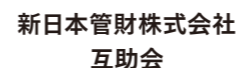
ご寄付をいただいた皆さま



アビームコンサルティング株式会社

MFSインベストメント・マネジメント株式会社

こどもプラスホールディングス株式会社



新日本管財株式会社
互助会

株式会社タガヤ

帝國製菓株式会社

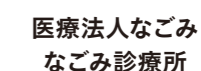
堂本製菓株式会社



株式会社東横イン

株式会社トラストファーマシー

株式会社とりすえ



医療法人なごみなごみ診療所



一般社団法人日本漢方薬膳協会



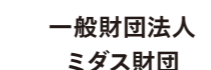
株式会社ビーブルフォーカス・コンサルティング



一般社団法人紫花会
ヘスマスマートクリニック



Miner Foundation



一般財団法人
ミダス財団



横浜ゴム株式会社



楽天モバイル株式会社

アースリードアテイン株式会社 / 株式会社アーツミッション / 株式会社アサヒインプレス / アステリア株式会社 / アネス株式会社 / 株式会社奄美群島環境文化総合研究所 / アルケミストコーヒージャパン合同会社 / 笑顔をつくる1000の会 / FSX株式会社 / F-Ride合同会社 / MS&ADゆにぞんスマイルクラブ / 有限会社エルジーエヌセミナーズ / 株式会社エルフ商事 / 株式会社エルローズ / 株式会社エンビュー / 株式会社くみみつ / 株式会社久保設備 / クレハサービス株式会社 / 医療法人社団くろべクリニック 産婦人科 / 税理士法人古田士会計 / Coriginal株式会社 / 株式会社ジョイメイト / 住友生命保険相互会社 / 株式会社SEIKO / 株式会社タカソノ / 高輪チーゼル株式会社 / 千葉電材機工株式会社 / 有限会社THS / 有限会社 ディスバシオ / データビズ合同会社 / 東京ビジネスサービス株式会社 / 株式会社永屋 / 日鉄エンジニアリング株式会社 / ハウジングスカイ株式会社 / 株式会社一 / BlueWorks株式会社 / 株式会社古木企画 / 株式会社プロミッション / ペイトータルサービスジャパン株式会社 / 魔法のタイツ株式会社 / 三井化学株式会社 / 三井化学ちびつとワンコイン / 社会保険労務士法人村松事務所 / 株式会社メディアnet / 森屋建設株式会社 / 結×繋 photo / Euromonitor International Limited / 株式会社ラファイエット / 株式会社リオ・トラスト / 竜友商事株式会社 / 株式会社 ローヤルエンジニアリング / 株式会社WORLDing

※五十音順・敬称略 ※10万円以上のご寄付をいただいている法人、団体の皆さまを掲載しています。

かものはしへの参加方法

寄付

クレジットカード、口座引き落とし、郵便振込からご寄付いただけます。



facebook



X(Twitter)



イベント情報



ボランティア



Instagram



公式LINE



技術提供ほか、さまざまな形でご支援いただいた皆さま

アドビ株式会社 / アビームコンサルティング株式会社 / 油屋マネジメントコンサルティング / 法律事務所UNSEEN / 弁護士法人大江橋法律事務所 / KDDIウェブコミュニケーションズ FLATBASE / NPO法人KOMPOSITION / sai company / システムアウェアネスコンサルティング / 有限会社人事・労務 / 株式会社セールスフォース・ジャパン / ソフトバンク株式会社 / 合同会社Tanne / 株式会社Deep Harmony / 一般社団法人ハーティン / ハチドリ電力 / 株式会社パリュブックス / 株式会社ビーブルフォーカス・コンサルティング / 認定NPO法人ピッコラレー / 株式会社まちづくりエイティブ / Yahoo!ネット募金 / 株式会社ロサ

2023年度 財務会計報告

活動計算書

(単位:円)

| 科目 | | 20期(2023年4月1日~2024年3月31日) | | | 21期(2024年4月1日~2025年3月31日) | |
|-----------|-------------------|---------------------------|-------------|--------------|---------------------------|----------|
| | | 当初計画 | 実績 | 計画達成率 | 計画 | 前年比増加(%) |
| 経常収益 | 受取会費 正会員・賛助会員受取会費 | 329,295,294 | 368,772,313 | 112% | 410,487,305 | 11% |
| | 受取寄付金 受取寄付金 | 86,031,211 | 93,228,320 | 108% | 98,895,996 | 6% |
| | 受取助成金等 助成金収入 | 35,787,824 | 28,929,677 | 81% | 65,759,528 | 127% |
| | 受託事業収益 委託金収入 | | | - | | - |
| | 事業収益 啓発事業収入 | | 801,406 | - | | -100% |
| | その他収益 雑収入等 | 1,320,000 | 3,874,356 | 294% | 1,320,000 | -66% |
| | 経常収益 計 | 452,434,329 | 495,606,072 | 110% | 576,462,829 | 16% |
| 経常費用 | インド事業 | 195,001,983 | 134,278,130 | 69% | 266,434,259 | 98% |
| | 啓発事業 | 194,692,659 | 218,586,021 | 112% | 218,116,996 | 0% |
| | 日本事業 | 66,480,240 | 56,094,989 | 84% | - | -% |
| | 妊産婦事業 | - | - | -% | 71,119,628 | -% |
| | 新規事業 | - | - | -% | 46,585,893 | -% |
| | 事業費 計 | 456,174,882 | 408,959,140 | 90% | 602,256,776 | 47% |
| | 管理費 事務局 | 94,428,631 | 80,301,809 | 85% | 135,780,303 | 69% |
| 経常費用 計 | 550,603,513 | 489,260,949 | 89% | 738,037,078 | 51% | |
| 当期経常増減額 | -98,169,184 | 6,345,123 | | -161,574,249 | | |
| 当期正味財産増減額 | -98,169,184 | 6,345,123 | | -161,574,249 | | |
| 前期繰越正味財産額 | 318,241,823 | 318,241,823 | | 324,586,946 | | |
| 次期繰越正味財産額 | 220,072,639 | 324,586,946 | | 163,012,697 | | |

貸借対照表 (2024年3月31日現在)

(単位:円)

| 科目 | | 金額 | 科目 | | 金額 |
|----------------------------|-----------------|--------------|-------------|-------------|------------|
| 資産の部 | 現金預金 | 280,945,023 | 負債の部 | 未払金 | 26,135,241 |
| | 未収金 | 30,970,504 | | 未払法人税 | 70,000 |
| | 立替金 | 59,910 | | 前受金 | 110,000 |
| | 前払金 | 77,000 | | 1年以内返済長期借入金 | 1,335,000 |
| | 前払費用 | 808,267 | | 預り金 | 3,522,043 |
| | 仮払金 | 0 | | 前受助成金 | 34,806,921 |
| | 流動資産 計 | 312,860,704 | | 流動負債 計 | 65,979,205 |
| | 長期未収入金 | 13,199,737 | | 固定負債 | 0 |
| | 差入保証金 | 1,242,000 | | 固定負債 計 | 0 |
| | 固定資産 (投資その他の資産) | 6,763,900 | | 負債の部 合計 | 65,979,205 |
| Leadership Nextプログラム基金特定資産 | 56,499,810 | 正味財産の部 | | | |
| 固定資産 計 | 77,705,447 | 前期繰越正味財産額 | 318,241,823 | | |
| 資産の部合計 | 390,566,151 | 当期正味財産増減額 | 6,345,123 | | |
| | | 正味財産の部 合計 | 324,586,946 | | |
| | | 負債及び正味財産の部合計 | 390,566,151 | | |

監事監査報告書

認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 理事長 青木 健太 殿

私たち監事は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査した。その結果、理事の職務の執行に関する不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められないことを確認した。また、貸借対照表及び活動計算書(「実績」部分に限る)は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める。

2024年5月24日

認定特定非営利活動法人
かものはしプロジェクト 監事

山本龍太郎



橋本純子



会計監査の実施について

当法人では2017年度(第14期)より会計監査人による外部監査を行っています。監査対象となった財務諸表及び監査報告書はホームページに掲載していますので、ご確認ください。今年度(第20期)の会計監査の結果に関して、財務諸表等がすべての重要な点において、財務諸表の注記に記載された会計の基準に準拠して作成されている旨の意見を頂戴しています。

2023年度報告及び2024年度計画

実績推移及び計画

2023年度の活動の規模を表す費用総額は4.9億円となり、前年度比21%の増加となりました。費用の内訳は、事業費が84%、管理費が16%です。事業費の内訳は、日本において問題の認知を高め問題の解決にむけてアクションして下さる方を増やす啓発事業が2.2億円、人身売買の問題に取り組むインド事業が1.3億円、日本での児童虐待の問題に取り組む日本事業が0.6億円でした。

これらの活動を支える2023年度収益総額は前年度比0.7億円増の5.0億円で、会費及び寄付が93%を占めています。WEB施策の奏功により新規会員が増加し、会員数は前年度末比18%増の17,498人に達しました。

インドでは進捗が遅れているLeadership Next事業等の予算を新年度に繰り越すため、2024年度予算は前年度比100%増の2.7億円となっています。インドの事業は開始から10年以上を経ており、事業のあるべき姿を検討するべく2024年度に総括をおこなっていく予定です。

2023年度は、特に困難を抱えている妊産婦の方々への支援を本格スタートし、千葉県松戸市に拠点を立ち上げました。そのため、2024年度からは「妊産婦事業部門」を財務上、独立させ管理をしていきます。妊産婦事業の2024年度計画は0.7億円となっています。

2023年度期末時点の現預金は2.8億円となっています。当面活動を安定して行うには十分な資金を有していると考えています。この資金を活用しながら、新規事業の立案・実行や事業及び活動を支える収益面の拡大を行う方針です。また、事業を支える事務局機能の強化を予定しています。

その他情報(参考)

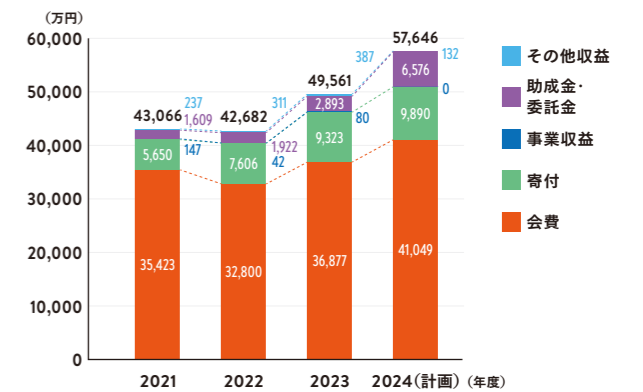
Leadership Nextプログラム基金特定資産について

Leadership Next事業の第二期期間の9ヶ月間延長に伴い、2022年度に特定資産として計上した95,355,877円につきましては、2025年4月までに支出する見込みです。また、2023年4月~2024年2月に本事業として支出した38,856,067円の取り崩しを行ったため、2024年3月31日時点における特定資産の残高は56,499,810円となります。

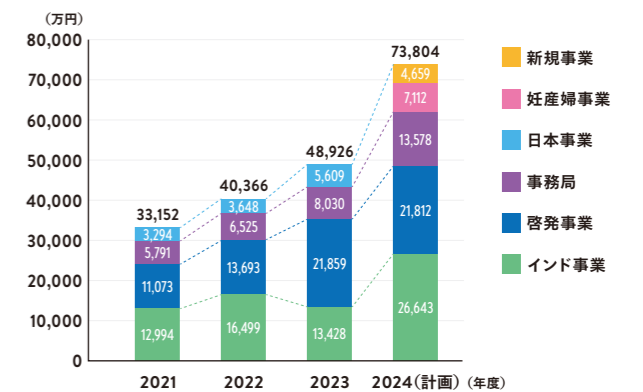
役員及びその近親者との取引の内容

長期未収金(貸借対照表)に計上された13,199,737円の全額が近親者及び支配している法人等との取引に該当します。全額が SALASUSU への事業譲渡に伴い発生したのになります。また、給料手当(活動計算書)に計上された72,866,639円の内、役員との取引は6,459,991円です。管理費の研修費(活動計算書)に計上された4,418,006円の内、役員・近親者及び支配法人等との取引は1,754,500円です。

収益推移



事業別支出推移



追徴課税に関して

2018年3月まで当法人の一事業であったカンボジアのコミュニティ・ファクトリー事業(以下、「CF事業」)について、2021年8月にカンボジア税務当局から税務調査があり、また、2022年12月に2016年4月~2020年3月の期間の消費税・法人税、源泉徴収及び延滞に対する課税・利息の合計、1,586,865,187リエル(58,714,011円)の納付が命じられました。当該CF事業については、2018年3月31日、NPO法人SALASUSU(以下、「SALASUSU」)に事業譲渡しています。SALASUSUと共同で外部の専門家に依頼し、税務当局に対して当該追徴額を不服として抗弁・交渉を継続しています。

※日本円は読者の便宜のために提供するものであり、2024年3月31日の為替相場(リエル=0.037円、単位未満切捨て表示)で換算しています。

この年次報告書は、サポートしてくださっている
印刷会社さまのご協力により、
ご寄付の一環として無償で印刷していただきました。
長年のご協力に感謝いたします。
今年も変わらずご協力を賜り、
皆さまに報告書を届けることができました。
かものはしスタッフ一同、心から感謝いたします。



認定NPO法人

かものはし プロジェクト

| | |
|--------|--|
| 団体名 | 認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト |
| 住所 | 〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402 |
| TEL | 03-6277-2419 |
| E-mail | info@kamonohashi-project.net |
| 理事 | 青木 健太 / 伊藤 健 / 篠田 真貴子 樋口 哲朗 / 村田 早耶香 / 横山 十社子 |
| 監事 | 橋本 純子 / 山本 龍太郎 |

かものはしプロジェクト

検索

<https://www.kamonohashi-project.net>

※かものはしプロジェクトは、被害者のプライバシーと意思を尊重し、
被害者個人が特定される写真は使用いたしません。
また写真を使用する際は本人の許可をいただいております。